



市政記者クラブ加盟社 各位

感染性胃腸炎の集団発生について

次の施設において、「感染性胃腸炎」の集団発生事例（2件）がありましたのでお知らせします。

1 盛岡市内の教育・保育施設（利用者・職員 50 名以上）

(1) 患者の状況等

ア 3月13日（月）に施設から、複数の利用者及び職員が嘔吐、下痢等の症状を呈している旨の報告。

イ 保健所が調査を実施し、3月9日（木）から3月15日（水）までに15名（利用者10名、職員5名）に嘔吐・下痢等の症状があったことを確認。

ウ 有症者は回復または回復傾向。

(2) 原因究明の調査等

ア 保健所が3月15日（水）に有症者7名に実施した糞便検査の結果、7名からノロウイルスを検出。

イ 保健所において感染経路等を調査したところ、手洗い不十分、嘔吐物処理の過程に一部不十分な点があったと推察されたことから、施設に対し手洗いの徹底、嘔吐物処理の手順の再確認等二次感染予防対策について指導。

ウ 給食を原因とする食中毒の可能性は低いと判断。

2 盛岡市内の教育・保育施設（利用者・職員 200 名以上）

(1) 患者の状況等

ア 3月13日（月）に施設から、複数の利用者が嘔吐、下痢等の症状を呈している旨の報告。

イ 保健所が調査を実施し、3月6日（月）から3月13日（月）までに利用者19名に嘔吐・下痢等の症状があったことを確認。

ウ 有症者は回復または回復傾向。

(2) 原因究明の調査等

ア 保健所が3月16日（木）に有症者7名に実施した糞便検査の結果、6名からノロウイルスを検出。

イ 保健所において感染経路等を調査したところ、体調不良者の利用、排泄処理及び環境面の消毒に一部不十分な点があったと推察されたことから、施設に対し利用者の健康観察や手洗いの徹底、排泄処理及び環境消毒の徹底等二次感染予防対策について指導。

ウ 給食を原因とする食中毒の可能性は低いと判断。

3 保健所からのお願い

感染性胃腸炎は、例年、秋から冬にかけて流行します。

盛岡市内における感染性胃腸炎の定点医療機関当たりの報告数は、2023年第10週（3月6日から3月12日まで）に9.29人となり、前週（6.29人）よりも増加しています。社会福祉施設はもちろん、各家庭においても、引き続き、調理や食事の前、トイレやオムツ交換の後の手洗い等を心がけ、感染予防に注意しましょう。

(1) ノロウイルスとは

ノロウイルスとは、嘔気・嘔吐と下痢を主症状とする急性胃腸炎の原因のウイルスのひとつです。ウイルスが体に取り込まれてから半日から2日の潜伏期間を経て、嘔吐が始まります。その後、水様性下痢が出現し、2日ほどの経過で回復に向かいます。症状がなくなっても2～3週間程度は便中にウイルスが排出されるといわれています。

(2) 予防方法

- ・ トイレやオムツ交換の後、調理前、食事前には石けんと流水で十分な手洗いを行う。

- ・ 下痢や嘔吐等の症状がある方は、食品を直接取り扱う作業を自粛する。
- ・ 調理する場合、加熱が必要な食品は85～90度・90秒以上で十分加熱する。
- ・ 嘔吐した場合は、部屋の換気を十分に行いながら、マスクや使い捨て手袋を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した器具を塩素系漂白剤で消毒する。
- ・ 嘔吐、下痢等の症状がある場合には、早めに医療機関を受診する。

(3) 感染性胃腸炎の集団発生状況

区 分	盛 岡 市				岩 手 県 (盛岡市含む。)			
	ノロ ウイルス	ロタ ウイルス	その他 (サボウ ウイルス等)	計	ノロ ウイルス	ロタ ウイルス	その他 (サボウイ ルス等)	計
令和4年4月 ～現在	30	0	6	36	81	1	36	118
昨年同期 (令和3年度)	2	0	0	2	51	0	2	53

【担当：指導予防課長 猿舘 賢治 電話：019-603-8244】